

H20 過去問解答

【問題 I】

1. 分娩異常とは、母体または児に何らかの原因があり、正常に分娩を行えないことである。遷延分娩、児頭骨盤不均衡、陣痛異常、胎位異常、回旋異常、肩甲難産、分娩後出血、急速遂分娩などがある。

遷延分娩とは、分娩開始から初産婦で 30 時間、経産婦で 15 時間を経過しても児娩出に至らないものをいい、正常の分娩から遅延することによって、分娩時の合併症が増加することが予想される。

児頭骨盤不均衡とは、児頭と母体の骨盤に不均衡があるために分娩進行が停止するか、母児に障害を来すか、あるいは障害を来すことが予想される状態のことをいう。

陣痛異常は、陣痛発作の持続時間・周期・強度を評価し、微弱陣痛または過強陣痛のいずれか一つ以上の異常を来した状態をいう。微弱陣痛は陣痛発作の頻度・持続時間・強さの 3 要素のうちいずれかまたは全てが微弱して分娩進行が止まり、分娩が遷延するものであり、過強陣痛は産道抵抗の増大（CPD、軟産道強靱、狭骨盤、回旋異常）や陣痛促進剤などにより陣痛が過度に強い状態である。子宮破裂、会陰・頸管裂傷、膣・外陰部血腫などの母体・産道の損傷や、子宮収縮に伴う胎盤血流減少、臍帯圧迫、胎児低酸素血症などの胎児へのストレスが増強する危険性があるため、迅速な対応が必要である。

胎位異常は胎児の骨盤が子宮口側にある状態、いわゆる逆子の状態のことをといい、これを骨盤位という。胎児最大部分である頭部が最後に娩出されるため、頭位分娩と異なり試行できない。分娩方針については慎重な対応が必要である。

回旋異常とは、正常な分娩機序によらない児頭の回旋のことである。産道最大通過面が大きくなるため、分娩は遷延する傾向にある。軟産道の損傷も多くなり、胎勢により帝王切開となる可能性がある。

肩甲難産とは、児頭娩出後に前在肩甲が恥骨結合につかえ、肩甲娩出が困難なために児の娩出が不可能な状況をいう。

分娩後出血は子宮筋収縮不良、子宮頸管損傷、胎盤剥離異常、子宮破裂が起こった場合にみられる症状である。

急速遂分娩は、分娩経過中に、母体または胎児に危険が生じ、自然の分娩の進行を待って児を娩出させるのでは遅すぎるため、直ちに娩出させねばならない状況が生じた場合に胎児を娩出させることである。方法には、吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開術がある。

2. 原因：子宮内膜症

子宮内膜組織が異所性に転移して生着する（エストロゲン依存症）。月経期に子宮内膜と同様に出血し、周辺臓器と癒着をつくる。子宮筋層へ内膜が侵入し子宮腺筋症を引き起こす。卵巣・卵管機能の機械的障害や排卵障害を起こす。そして流産や着床不全の原因となる免疫異常が起こる。